

[TOP page](#)[資料室](#)[イベント情報](#)[講師を探す](#)[Worker's 広場](#)[関連リンク](#)

資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [労働組合](#) | [労働安全衛生](#) | [安全衛生の基本理念](#)
[労働組合](#)[労働者福祉・共済](#)[一般教養](#)[組織活動](#)[組織運営と法律](#)[労働安全衛生](#)[経営対策活動](#)[教育・宣伝活動](#)[労働時間をめぐる諸問題](#)[教育活動](#)[選挙活動](#)[組合組織（公務員）](#)[教育カリキュラム](#)[▶ キーワード検索はこちら](#)

安全衛生の基本理念

安全衛生活動の基本は、「安全は全てに優先する」という労働意識の定着化と、現代の基本的な考えとして災害ゼロから危険ゼロへという変化に表れているように、人間は間違いを起こす可能性を持っているという認識にたって活動することです。

「災害ゼロ」の考え方の根底は、仕事を遂行する作業員中心の捉え方に立脚したもので、教育訓練や技能の習熟、安全な使用方法の徹底を強化する、という発想となり、作業員の責任を第一としました。

これに対し、「危険ゼロ」は、「この世に安全はない、あるのは危険だけ」という考えが根底にあり、労働者の安全と労働（場）の安全が確保されることが必要である。

したがって、危険をいかに排除していくかという発想にたち、本質安全化の基礎的考え方となるものです。このような安全衛生理念が国際的な潮流となっています。

国際安全規格に見る

【安全の定義】

「受け入れ不可能なリスクがないこと」

【リスクとは】

「危害の発生確率と危害のひどさの組合せ」

【危害とは】

「人の受ける物理的傷害若しくは健康傷害又は財産若しくは環境の被害」

ISO/IECガイド51（国際標準化機構・国際電気標準会議の合同作成）

機械の包括的な安全基準に関する指針（平成13年6月1日）は、この考えを基盤に策定されています。

すなわち「絶対安全」は存在しないということであり、残留リスク（受け入れ可能なリスク又は許容可能リスク）が存在する、ということです。

「リスクは常に存在している（残留リスク）ただ受け入れられる、または許容される程度に抑えられている状態に過ぎない。常に事故は起こりうる状態。絶対に安全であることを意味していない」（ISO/IECガイド51より）

ISO12100の制定により、職場の安全衛生に対する考え方が転換したのです。

これが「本質安全化」の提唱、リスクの低減活動（リスクアセスメント・労働安全衛生マネジメントシステム）へ結びついているのです。

本質安全化とは

フルブルー機能とフェールセーフ機能を併せもつこと。

<フルブルー> 人に着目

使用を間違えたり、異常や設備の故障があっても危険な操作（使用）ができないようにした安全機構のこと。

<フェールセーフ> 設備（機械）に着目

「失敗（誤操作）しても安全」という意味で、必ず安全側に故障するようにした安全機構のこと。

このように、安全衛生の活動理念は「人・環境・管理」の三要素のバランスの上に成り立っていることに着目した理念形成へ転換しています。災害・事故検討対策にあたってはこのような安全理念に基づき真の災害要因・原因の究明と対策が求められます。

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

[>>一覧へ戻る](#)

[🔍 サイトマップ](#) [🔍 このサイトについて](#) [🔍 個人情報保護の取組みについて](#)

[🔍 ページTOPへ](#)

[TOP page](#)

[資料室](#)

[イベント情報](#)

[講師を探す](#)

[Worker's広場](#)

[関連リンク](#)

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.